

---

コロキウム「日本のクマ 91」

(会議概報)

- (1) 開催日程 1991年7月12日～15日
- (2) 開催場所  
会 場 丸三証券株式会社「箱根秀嶺荘」  
神奈川県箱根町千石原高原1246  
イカサ-ション 神奈川県丹沢山地(オクダケマテリ-調査地)
- (3) 参加者 合計 49名(別添リスト)
- (4) 事務局 コロキウム「日本のクマ 91」  
(〒113) 東京都文京区湯島2-29-3  
長尾自然環境財団気付  
(電話:03-3812-3123、FAX:03-3812-3129)

## 講演・討議概要

### (1) 第1セッション「日本人とクマ」

クマ類の国際取引に関する内外の問題、日本におけるクマ類の歴史民俗、クマの胆の薬効と歴史および多頭飼育施設におけるクマ類の飼育管理状況と疾病問題など多彩な話題が提供され、討議ではクマ資源の持続的利用、集団飼育のあり方と種の維持（ズーストック）などについて議論された。

### (2) 第2セッション「各地域個体群の現況」

西日本および北海道の一部地域について、ツキノワグマ・ヒグマの各地域における個体群の孤立化や衰退の現況報告が目立った。地域個体群の衰退には、捕獲と生息地の改変（森林の農地・その他用途転換、人工林の増加など）が大きく作用しているとの見方が示されたのを受け、個体群の回復と生息地保全を中心とする保護管理のゴールを地域ごとに設定していく必要性などについて討議された。

### (3) 第3セッション「狩猟及び有害獣駆除と保護管理の現状」

今後の狩猟のあり方、参加自治体におけるクマ類の捕獲・被害状況とその問題点、有害駆除における総合的な防除の必要性などが紹介された。全体としては保護管理の方向を指向している様子が報告されたが、有効な保護管理を進めるための論議では、行政単位よりもクマ類の分布状況と地形地域区分に基づく地域個体群管理ユニット設定の必要性、などが討議の中心となった。

### (4) 第4セッション（クマの生理・生態と調査研究法）

クマの生態、繁殖生理、生息数および食性・生息地評価に関する最近の調査研究成果が紹介された。そして、科学的な保護管理を目指す上で欠くことのできない生息数などの調査手法やその調査精度の向上について、主として生態学的見地から意見交換がなされた。また、繁殖生理と個体群動態の調査から、クマ類の繁殖・出産成績と前年秋の堅果類の結実状況の関連が明らかになってきたため、個体群動向の掌握や捕獲許容量算定のためには今後、堅果類結実と出産状況の関連を追跡調査していく必要性が指摘された。

### (5) 第5セッション（まとめ）

3日間のコロキウムの結論として、世界と日本のクマ類の生息を将来にわたって維持するために当面取り組む必要のある事項について討議し、10項目の共通認識を得ることができた。これを受けて、「世界と日本のクマの将来のために」（コロキウム「日本のクマ'91」結論）を採択した。

---

世界と日本のクマの将来のために

(コロキウム「日本のクマ'91」結論)

---

コロキウム「日本のクマ'91」に参集した私たちは、7月12日から3日間の会議を通じて、以下の点について共通の認識を得ることができた。

#### **1. 基本理念**

わが国に生息するツキノワグマとヒグマは国民共有の財産であり、自然のもつ多様性のシンボルとして未来に引き継がなければならない。また、クマ類の多様な価値を認識し、その資源的利用は持続的でなければならない。

#### **2. 絶滅のおそれのある個体群の保護**

今、いくつかの地域個体群が絶滅の危機に瀕しており、これらについて早急に回復の措置を講ずる必要がある。

#### **3. 法体系の見直し**

野生生物保護を目的とした総合的な法体系の再編成が必要である。

#### **4. 科学的保護管理**

個体群の維持と生息環境の保全のため、調査と評価方法の開発によって科学的保護管理を進める必要がある。

#### **5. 生息地管理**

森林環境はクマ類の存続を左右する重要な要素であり、森林を中心とした土地利用のあり方を見直す必要がある。

#### **6. 研究機関の設置・充実**

クマ類の適正な保護管理の必要性の認識のもとに、調査研究機関の設置・充実を図るべきである。

#### **7. 被害防止対策**

駆除に偏った現行の被害対策から総合的な被害防除対策への転換に努める。

#### **8. 動物園・飼育施設**

動物園及び飼育施設は野生個体群に対する影響について十分な配慮をし、種と地域個体群の保存、繁殖に貢献するべきである。

---

**9. 合意形成**

人とクマ類との共存のために広く国民に情報を提供し、合意形成を図る。

**10. 国際協調**

世界のクマ類の保護にむけて国際的役割を自覚し、積極的に努力する。

1991年 7月14日

コロキウム「日本のクマ'91」実行委員会

[各条細目]

**1. 基本理念**

- 1.1. 地域ごとの生物多様性維持のため、各地域の生息種とその生息地の保護、すなわち生物圏の保護をすすめる。ツキノワグマ、ヒグマは日本の生物相の重要な構成要素であり、その管理保護を野生生物保護管理の優先課題とする。
- 1.2. クマ類の資源的利用では、次項以下で述べる地域個体群の保護、科学的保護管理や生息地管理の上で行う。
- 1.3. 国民の共有財産としてのクマ類の意義について積極的な普及宣伝に努める。

**2. 絶滅のおそれのある個体群の保護**

- 2.1. 地域生物相多様性保護の原則から地域個体群を維持する。地域個体群とは、ここでは便宜的に地形と生息状況などから分布域が区分される個体群をさす。
- 2.2. 国内的には、ツキノワグマは西日本のいくつかの孤立分布域で、ヒグマは道央部などでは、現状を放置すると地域的絶滅が生じる危険があると認識する。
- 2.3. 特に四国のツキノワグマについては、人工繁殖と生息地の回復を図ることを含めた保護対策を緊急に実施しなければ絶滅するおそれが高い
- 2.4. 人工繁殖を実施する場合は、動物園等関係機関との協力体制を進める。
- 2.5. 地域的絶滅が現在は危惧されていない地域についても、現在の地域個体群レベル（分布域、生息数）を維持するよう狩猟と有害駆除捕獲を管理する。
- 2.6. 絶滅を危惧されているクマ個体群の特別な保護区を設定する。

\*人工繁殖が地域個体群の保護対策の一つとして必要な地域：

四国のツキノワグマ個体群（徳島県、高知県、（愛媛県））、九州のツキノワグマ個体群（大分県、宮崎県、熊本県）

\*捕獲が地域個体群の存続に重大な影響を与えているため狩猟と有害駆除捕獲の制限強化が必要な地域：

紀伊半島のツキノワグマ個体群（三重県、奈良県、和歌山県）、東中国山地のツキノワグマ個体群（兵庫県、鳥取県、岡山県）、西中国山地のツキノワグマ個体群（島根県、広島県、山口県）、下北半島のツキノワグマ個体群（青森県）、釧丹・恵庭山地のヒグマ個体群（北海道）

\*その他、配慮の必要な地域：

北海道北部、山梨県南部、神奈川県北部、静岡県北部、兵庫県東部・京都府西北部

### 3. 法体系の見直し

野生生物の保護とその生息環境の保全に関する現行の鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律はもとより森林法、自然公園法等の見直しを急ぐ。

### 4. 科学的保護管理

4.1. 個体群の地域特性に対応した保護管理ユニットを設定し、各ユニットで狩猟及び生息地の科学的管理を図る。

4.2. ユニットごとの保護管理目標のもとに生息状況のモニタリングを行う。

4.3. 科学的な野生生物の保護管理を担う研究者の育成を図る。

### 5. 生息地管理

5.1. 生息地の収容力を高めるため、森林施業方法の見直しを急ぐ。

5.2. 実施機関を設置し、人員の充実を図る。

### 6. 研究機関の設置・充実

6.1. 野生動物保護管理と調査研究は、行政が取り組むべき今後の重点な部門であり、国、都道府県、市町村の各レベルで組織を拡充する。

6.2. 上記の目的を達成するための財政的措置をとる。

### 7. 被害防止対策

7.1. 被害防除のための捕獲駆除は地域個体群の存続の脅威となっているため、物理的防除対策など非捕殺的な被害防止対策を進める。

7.2. 被害防止対策としては救済措置の拡充などの制度的対策も必要である。

### 8. 動物園・飼育施設

8.1. 動物園・飼育施設は次の点に注意した管理運営を行う。

1) 飼育・展示のための個体は、飼育下の繁殖個体からの供給を原則とする。

2) 地理的変異の保存のため、個体の出自を明確にする。

3) 逃亡と遺棄。

4) 移入に伴う疾病を予防する。

### 9. 合意形成

9.1. 国、都道府県等、行政は関係団体、市民その他関係者に積極的に情報を提供し、意見交換の場を用意するなどして合意形成に努める。

---

## 10. 国際協調

- 10.1. クマ類は資源性があり、また生息地改変など人間活動の影響を受けやすい大型獣として、国際的に積極的な資源維持・保護が必要である。
- 10.2. クマ類の国際取引をモニターするため、韓国、北朝鮮のワシントン条約加盟をうながす。
- 10.3. ソ連のヒグマ個体群のワシントン条約附属書への掲載を促進する（次回締約国会議）

以 上



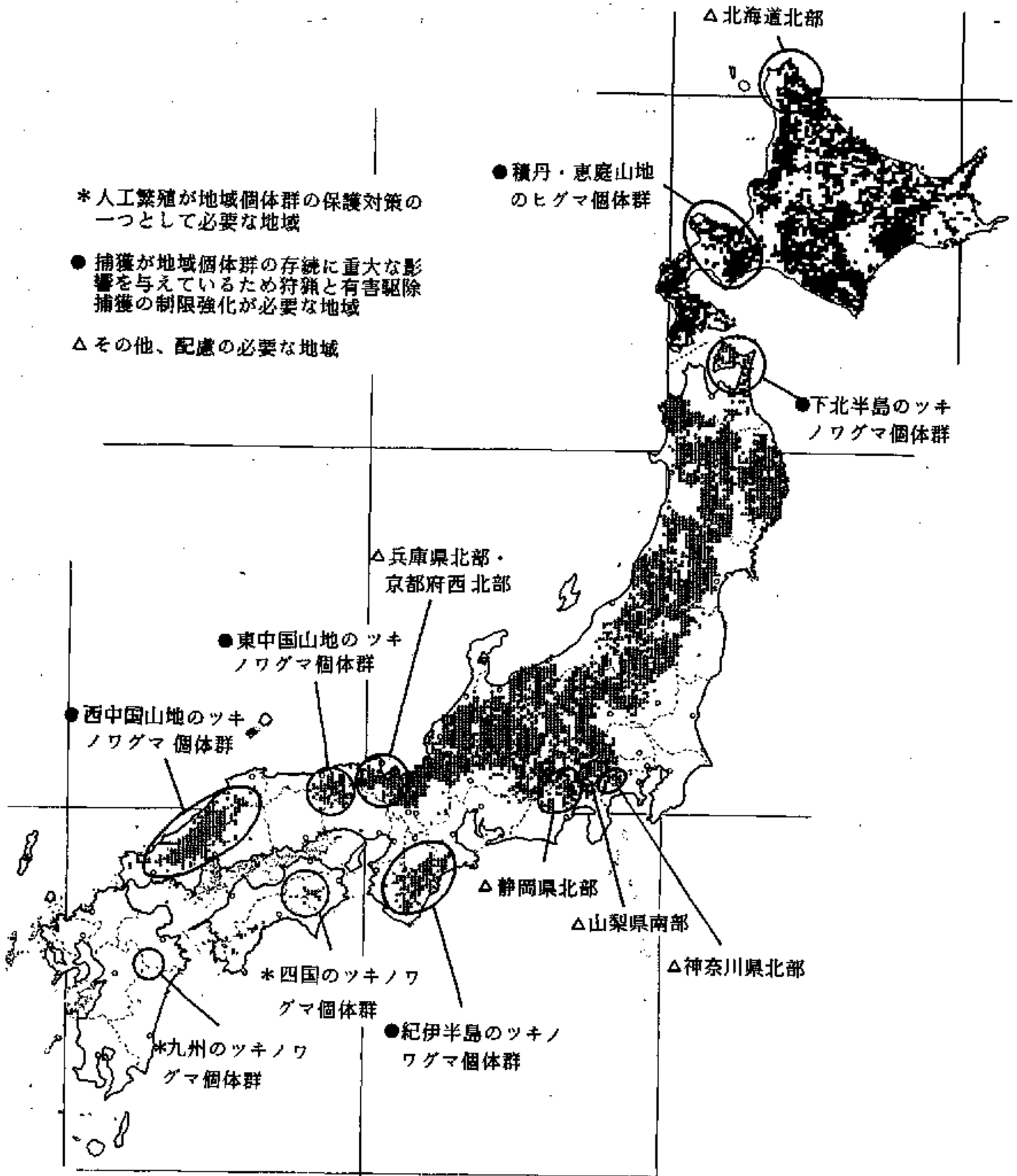


図1 コロキウムの結論（各条細目第条）で示された保護管理の強化が必要な個体群の分布域  
 布域

---

Colloquium "Bears of Japan '91"

Summary

Date: 12 - 15 July 1991

Venue: Guest House of Marusan Securities Co. "Hakone Shureiso"  
Hakone, Kanagawa Prefecture

Number of participants: 49

Secretariat: Organizing Committee of Colloquium "Bears of Japan '91",  
c/o Nagao Natural Environment Foundation, Yushima 2-29-3  
Bunkyo-ku, Tokyo 113

In co-operation with the Environment Agency



---

## Programme

### 12 July

Opening remark

Session 1. Bears and Japanese people

- International implication of the conservation of bears
- Bears and Japanese people
- History of gall bladder utilization
- Captive breeding at Aso Bear Farm

### 13 July

Session 2. Status of bear populations in Japan

- Brown bear in Hokkaido
- Asiatic black bear in Tohoku District
- Asiatic black bear in Chubu-Hokuriku District
- Asiatic black bear in Kii Peninsula
- Asiatic black bear in West Chugoku District
- Asiatic black bear in Kyusyu

Session 3. Hunting, problem-animal control and conservation

- Hunting of bears and its problem
- Hunting and problem-animal control in Aomori
- Status of bears in Akita
- Conservation and management of bears in Hiroshima
- Status of bears in Tokushima
- Total ban on spring season hunting in Hokkaido
- Damage to crops and forest
- Integrated protection system against bear damage

### 14 July

Session 4. Physiology and ecology of bears and associated research techniques

- Research on bears conducted by the Environment Agency
- Capture and radio telemetry
- Population analysis based on hunted animals
- Estimate of bear population
- Relationship between vegetation and food preference
- Breeding physiology of bears
- Management of bear populations

Session 5. Conclusion

---

## Summary of presentation and discussion

### Session 1. Bears and Japanese people

Presentations were made with regard to international trade in bears, history and folklore of bear hunting in Japan, efficacy and history of bear gall bladder exploitation, captive breeding and disease, etc.. The sustainable use of bears as a natural resource, mass-breeding and the survival of species (the Zoo Stock Programme) were also discussed.

### Session 2. Status of bear populations in Japan

Most of the presentors agreed that many of the local populations, particularly in Hokkaido and western Japan, were isolated and reduced significantly. Hunting and the alteration of habitat contribute to the decline of local populations. The necessity for the recovery of reduced populations was discussed, and it was agreed that the final goal of management should be the conservation of habitat on a regional basis.

### Session 3. Hunting, problem-animal control and conservation

Presentors referred to issues of how hunting should proceed in future, bear hunting as problem-animal control, damage to crops and forest and the need for integrated protection against bear damage. The concensus was that the conservation and management of bears should not be done on the basis of political units, e.g., prefecture and village, but on the basis of an ecological unit, which can be determined by taking into consideration the distribution of bears and local topography.

### Session 4. Physiology and ecology of bears and associated research techniques

Topics presented included the ecology of bears, breeding physiology, population status, food and habitat preferences. Research techniques were discussed from an ecological point of view for the scientific conservation and management of bears. Studies on physiology and population dynamics revealed a close relationship between breeding success and the supply of nuts in the previous autumn. It was pointed out that such a relationship should be studied annually so to monitor population dynamics and establish the number of bears that can be hunted.

### Session 5. Conclusion

To ensure the survival of bears in Japan and the world, discussions were held and the participants reached a concensus as described in "For the future of bears of the world and Japan".

---

For the future of bears of  
the world and Japan

Conclusion of a colloquium "Bears of Japan '91"

---

## General

After three days of discussion, the participants reached the following conclusions:

1. Basic principle: The Asiatic black bear and brown bear are common assets of the Japanese people. As a symbol of the diversity of Japan's natural environment, the two species of bear must be conserved for generations to come. We also perceive there are a variety of societal values associated with bear conservation, and utilization, if any, should be conducted on a sustainable basis.

2. Protection of local populations in danger of extinction: Some local populations are in danger of extinction and these must be fully rehabilitated.

3. Review of legislation: The existing legislation system should be restructured to better achieve wildlife conservation.

4. Conservation and management through scientific means: For the maintenance of local populations and conservation of habitats, we need to promote the conservation and management of bears based on scientific evidence through developing research techniques and evaluation systems.

5. Management of habitats: Forest habitat is an important factor which influences the survival of bears. Land use practices, including forests, should be reviewed.

6. Establishment and improvement of institutes: Institutes should be established to promote the proper management of bears. Existing research organizations should also be improved.

7. Damage control: Every effort must be made to convert from hunting for problem animal control, to integrated protection.

8. Zoos and captive breeding: Zoos and any other captive breeding operations should pay special attention to the effect of these operations on wild populations. They should contribute to the survival of species and local populations at risk through captive breeding.

9. Public awareness: We should provide the public with sufficient information on bears and make them aware of the importance of the co-existence of bears and human beings.

10. International co-operation: We should recognize Japan's role in the international community and make efforts to conserve the bears of the world.

---

---

Substance

1. Basic principle:

1.1. To maintain biological diversity on a regional basis, we should promote the conservation of biotopes in each region. The Asiatic black bear and brown bear are considered to be key species of Japanese fauna and, as such, their management and conservation should be given top priority.

1.2. Where bears are used as a natural resource, we should take into consideration the conservation of local populations and the scientific management of bears and their habitats.

1.3. The importance of bears as common assets of Japanese people should be made aware to the public.

2. Protection of local populations in danger of extinction:

2.1. We should maintain local populations because the conservation of biological diversity on a regional basis is of prime importance. Local populations are defined here as those which are arbitrarily separated from one another on the basis of topography.

2.2. We recognize that some of the isolated populations of the Asiatic black bear in western Japan may go extinct unless appropriate measures are taken. There is also a strong possibility that the brown bear will become extinct in the western part of Hokkaido.

2.3. For the Asiatic black bear in Shikoku, captive breeding and improvement of the quality of habitats must be pursued as a matter of urgency.

2.4. To execute captive breeding, co-operation projects with concerned organization including zoos should be established.

2.5. In regions where local populations are not endangered, hunting and problem animal control should be managed and restricted so as to maintain the current population levels.

2.6. Special protection areas are required to rehabilitate endangered populations of bears.

- Regions where captive breeding is necessary:

Asiatic black bear: Shikoku (Tokushima, Kouchi, Ehime), Kyusyu (Ooita, Miyazaki, Kumamoto)

- Regions where sports hunting and problem animal control should be



restricted since hunting is considered to have a negative effect on the survival of local populations:

Asiatic black bear: Kii Peninsula (Mie, Nara, Wakayama), Western Chugoku Range (Hyogo, Tottori, Okayama), Eastern Chugoku Range (Shimane, Hiroshima, Yamaguchi), Shimokita Peninsula (Aomori)

Brown bear: Eniwa and Syakotan (Hokkaido)

- Other regions where special attention should be paid:

northern Hokkaido, southern Yamanashi, northern Shizuoka, eastern Hyogo, north-western Kyoto

### 3. Review of legislation:

National legislation related to the conservation of wildlife and its habitat should be modified, including a revision of the Natural Parks Law, Law concerning Wildlife Protection and Hunting and Forestry Law.

### 4. Conservation and management on a scientific basis:

4.1. Units for the conservation and management of bears should be established on the basis of the characters of regions. In each unit, hunting and habitats should be managed scientifically.

4.2. The goal for conservation and management should be set by each unit. According to this goal, the status of bears should be monitored.

4.3. The training of researchers responsible for the conservation and management of wildlife is essential.

### 5. Management of habitats:

5.1. To enhance the carrying capacity of habitats, the forest management system should be reviewed.

5.2. Executive organizations should be established and the number of staff members increased.

### 6. Establishment and improvement of institutes:

6.1. The conservation, management and research on wildlife are important themes which should be undertaken by central and local governments. The existing organizations responsible for wildlife should be improved.

---

6.2. Those governments should provide financial resources to effect this.

7. Damage control:

7.1. Hunting for problem-animal control poses a threat to the survival of local populations. Non-lethal methods should be pursued.

7.2. Improvement of the current compensation system is also important.

8. Zoos and captive breeding:

8.1. Zoos and breeding operations should take into consideration the following items:

- 1) In principle, bears for exhibition should be provided from those animals which were bred in captivity.
- 2) A record on the source of animals should be kept.
- 3) Escape and abandonment.
- 4) Protection of wild bears against disease caused by the introduction of other animals.

9. Public awareness:

9.1. Administrative organizations such as the government and prefectures should provide concerned people with sufficient information on bears and make efforts to exchange opinions.

10. International co-operation:

10.1. International co-operation is essential to conserve bears because bears are considered a significant natural resource and vulnerable to the destruction of habitats.

10.2. To monitor the international trade in bears, we should urge the Republic of Korea and the Democratic People's Republic of Korea to accede to CITES.

10.3. We should support the listing of the USSR population of the brown bear in CITES appendices.

---

コロキウム日本のクマ' 91 記録集

1995年11月

コロキウム日本のクマ' 91 実行委員会

連絡先：東京都文京区湯島2-29-3

長尾自然環境財団

---

未 定 稿